

大腸の病気

～気をつけたいサインと治療について～

大腸癌編

大腸癌は大腸（結腸や直腸）の粘膜から発生した異常な細胞が増殖し塊となった悪性腫瘍です。最新のデータでは日本人のがん罹患数は大腸癌が最も多く、非常に身近な病気です。

Q1 大腸癌の症状（サイン）には何がありますか？

初期にはほとんど症状はないですが、進行すると便に血が混じる、便が細くなる、便秘や下痢が続く、腹痛や腹部の張り、疲れやすさ（貧血症状）などの症状が現れます。これらの症状があっても痔や食生活などのせいと考え放置すると、更に進行してより大きな治療が必要となったり治療が困難となったりすることがあります。

早期発見・早期治療により高い治癒率が期待できるため、40歳を

Q2 大腸癌の治療法は？

治療法は癌の進行度や患者さんの全身状態によって異なります。早期大腸癌の一部は内視鏡による切除が可能です。進行した場合は手術で癌を取り除くのが基本です。当院でも腹腔鏡をお腹の中に挿入し拡大視しながら手術を行う腹腔鏡下手術や、多関節機能がある鉗子を小さな傷から挿入して手術するロボット支援下手術などの低侵襲手術を積極的に行っています。骨盤内の狭い部位や重要臓器が立体的に存在している膀胱周囲等でも丁寧で安定した手術が可能です。当院のデータでは合併症率も低く早期回復が期待でき、患者さんに優しい手術を実践しています。

詳細は第147回岐阜市民病院

公開講座にて説明しております。是非講演動画をご視聴下さい。

潰瘍性大腸炎編

大腸の病気で慢性の下痢や血便を来す潰瘍性大腸炎という難病があり、年々その患者さんは増加しており、現在30万人を超える人が罹患しています。今回は潰瘍性大腸炎についてお話ししたいと思います。

Q1 潰瘍性大腸炎ってどんな病気ですか？

大腸の粘膜に慢性的な炎症を起こす病気です。原因は不明ですが、何らかの遺伝性素因のある方が腸内細菌や食事などの環境因子に対して何らかの免疫（外部からの細菌やウイルスを排除するシステム）が過剰、異常に反応することで炎症が起ると考えられています。通常は大腸の肛門に近い直腸から口側の大腸へ連続して、また

粘膜から粘膜下層の表層に炎症が起こります。慢性に炎症が起こること下痢、血便、腹痛などの症状が続いたり、繰り返したりします。炎症を落ち着かせ（寛解導入）、それを続けること（寛解維持）が必要で、定期的な通院とお薬をつづけていくことが大事です。治療には薬物療法、透析療法、手術療法があります。また近年新しい機序の薬物療法が多数できております。患者さんのライフスタイルや状況にあわせて、医師と相談して治療法をきめていくことが大事です。

Q2 生活や食事での注意点はありますか？

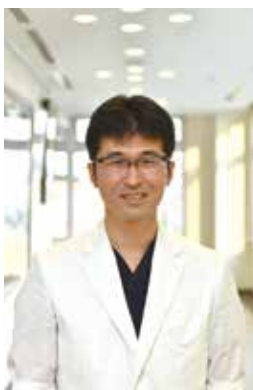
症状のある活動期にははげしい運動は控えてください。ストレスをためすぎず、過労や睡眠不足には注意しましょう。寛解期には制限は必要ありません。食事は活動期には消化しやすく高エネルギー、高タンパク質、低脂肪、低繊維の食事がよいとされています。香辛料やコーヒー、アルコール、炭酸飲料、冷たいものは控えるに、乳製品も過剰な摂取は控えた方がよいです。寛解期では厳密な制限はありません。



岐阜市民病院
ホームページ

定期開催の「岐阜市民病院公開講座」の講演動画は、岐阜市公式 YouTube チャンネルで公開中です！
八幡医師、小木曾医師による「大腸」に関する講演動画は、6月より公開しています。
詳しくは、岐阜市民病院ホームページをご確認ください。

今月の先生 岐阜市民病院



消化器外科（特に大腸・直腸）、
内視鏡外科

八幡 和憲

○役職
外科部長
災害医療部長
○主な資格、認定
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
消化器がん外科治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）
日本食道学会食道科認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師
大腸肛門病専門医
日本腹部救急医学会認定医
日本DMAT 隊員
Certificate of da Vinci console surgeon
ロボット支援手術認定プロクター（消化器・一般外科：大腸）
日本臨床外科学会評議員
○卒業年、主な職歴
平成15年岐阜大学医学部卒
岐阜県総合医療センター 外科
愛知県がんセンター 消化器外科部レジデント
高山赤十字病院 外科



消化器内科

小木曾 富生

○役職
消化器内科部長
治験・臨床研究管理センター長
医療情報部副部長
○主な資格、認定
日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定医
日本消化器病学会指導医・専門医・東海支部評議員
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・総会学術、東海支部評議員
日本肝臓学会専門医
日本消化管学会指導医・専門医
日本ヘリコバクター学会認定医
○卒業年、主な職歴
平成13年卒